令和8年度春季特別展

松山子規会創設者・柳原極堂

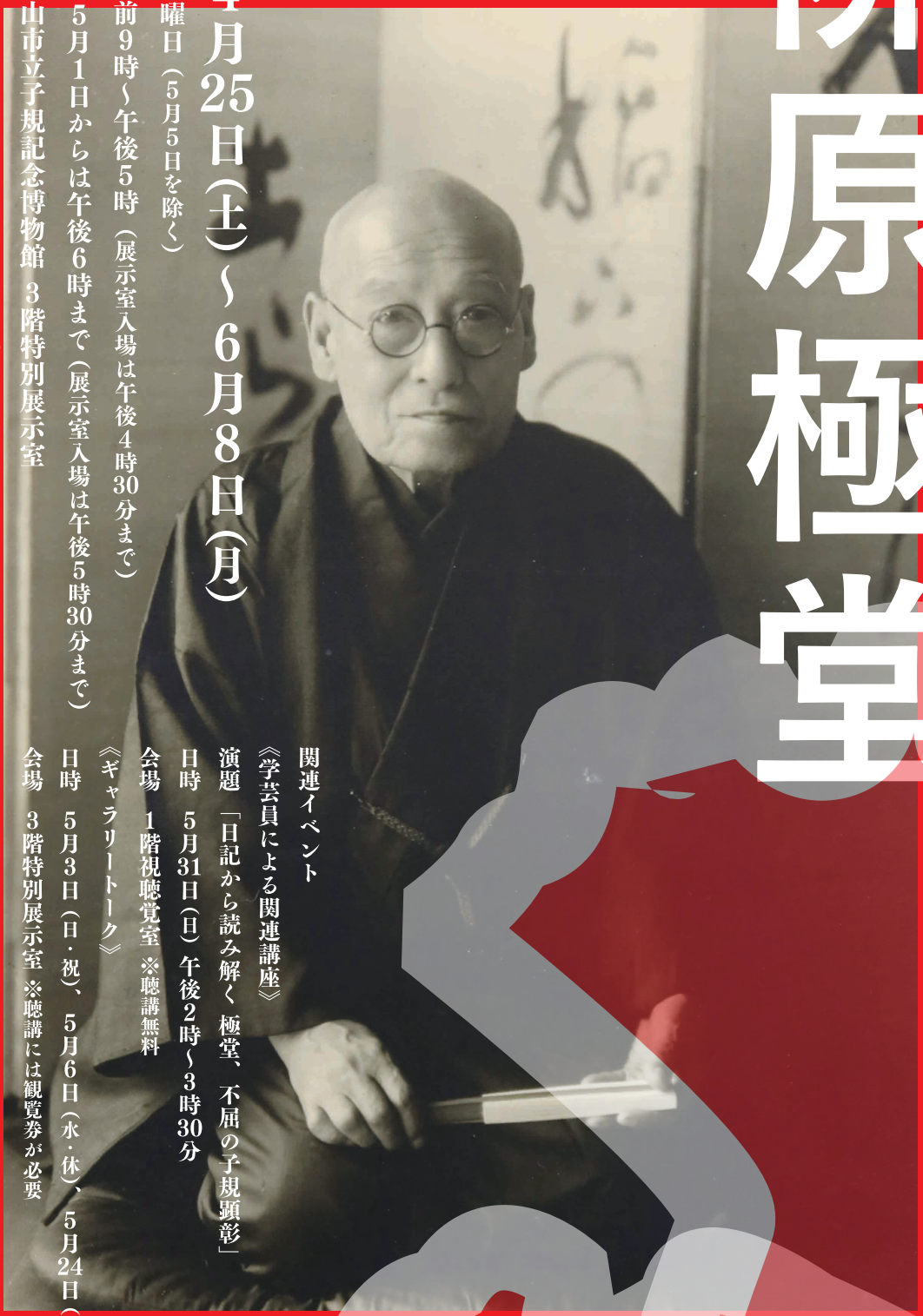
令和8年 4月25日(土)～6月8日(月)

休館日 火曜日（5月5日を除く）

開館時間 午前9時～午後5時（展示室入場は午後4時30分まで）
※5月1日からは午後6時まで（展示室入場は午後5時30分まで）

会場 松山市立子規記念博物館 3階特別展示室

観覧料 個人250円 団体200円 65歳以上125円 高校生以下無料



関連イベント

《学芸員による関連講座》
演題 「日記から読み解く 極堂、不屈の子規顕彰」
日時 5月31日(日) 午後2時～3時30分
会場 1階視聴覚室 ※聴講無料

《ギャラリートーク》
日時 5月3日(日・祝)、5月6日(水・休)、5月24日(日) ※ともに午前10時から50分程度
会場 3階特別展示室 ※聴講には観覧券が必要

問い合わせ先
松山市立子規記念博物館
℡ 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園 1-30
https://shiki-museum.com

令和８年度春季特別展

松山子規会創設者・柳原極堂

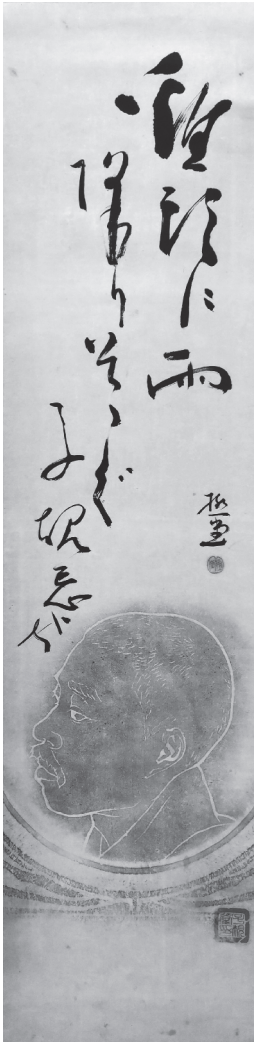
子規の親友・柳原極堂は、子規の顕彰活動に人生を捧げ、子規の人柄や業績を次世代へ語り継ぐことに力を注ぎました。今日の「俳都松山」があるのは、極堂の子規顕彰の賜物といえます。

極堂は一八六七（慶応三）年二月十一日、松山城下北京町に生まれました。同い年の極堂と子規は松山中学校時代に親しくなり、ともに漢詩や政談演説に熱中します。子規は極堂のことを「文友」と呼び、交友は上京後も続きましたが、一八八九（明治二十二）年、極堂は帰郷して海南新聞社（現在の愛媛新聞社）に入社し、新聞記者として歩み始めます。

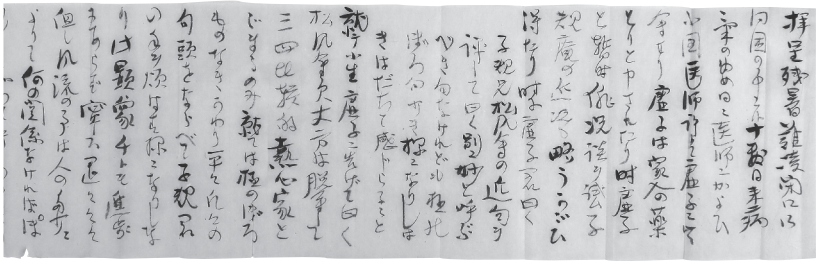
東京時代に子規の勧めで俳句を始めた極堂は、松山でも「碌堂」の号で句作を続けます。明治二十七年に松山で俳句結社「松風会」が結成されると、極堂もこれに参加し、翌明治二十八年、松風会会員とともに夏目漱石の下宿・愚陀佛庵に日参して子規の指導を仰ぎました。また極堂は海南新聞社員として、子規の俳論「俳諧大要」を『海南新聞』に掲載するなど、子規の俳句革新を力強く支援しました。さらに明治三十年一月には、子規の俳句革新を広く発信するため、俳誌『ほとゝぎす』を創刊しました。

明治三十五年の子規の死後、一度は俳句界から身を引いた極堂でしたが、一九三二（昭和七）年、東京で阿部里雪ら気鋭の青年たちとともに俳誌『鶏頭』を立ち上げ、子規顕彰の第一歩を踏み出します。さらに昭和十八年、今度は子規の研究団体である「松山子規会」を結成し、一九二六（大正十五）年に建立された子規堂とともに子規顕彰の拠点としました。極堂の想いは今日の松山市にも継承され、現在も続く松山子規会の活動や子規記念博物館の開館、そして今年夏に予定されている愚陀佛庵の再建へと繋がっています。

今回の特別展では、子規・漱石と過ごした愚陀佛庵の五十二日間やその後の極堂の子規顕彰活動を物語る資料の数々をとおして、松山子規会を創設し、子規の業績を未来に伝え、「俳都松山」誕生の功労者となった柳原極堂の不屈の歩みを紹介します。

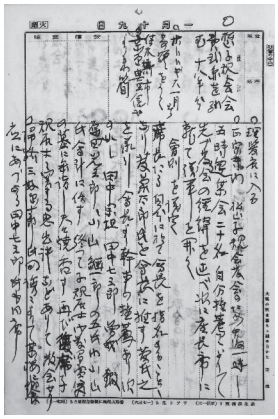


柳原極堂句「鶏頭に雨降りそゝぐ子規忌哉」



柳原極堂の子規あて書簡（明治 29 年 8 月 27 日）

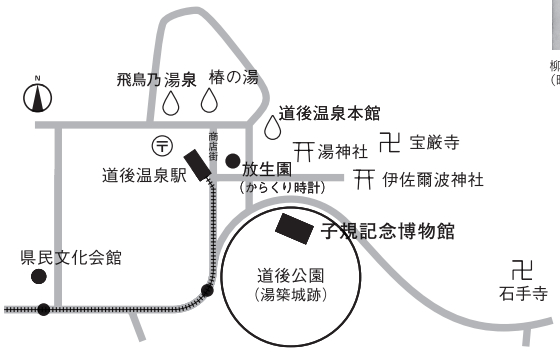
海南新聞退社時の柳原極堂（明治 39 年、極堂は前列右から２人目）



柳原極堂日記
（昭和 18 年１月、松山子規会発足時の記述）

『鶏頭』創刊号

柳原極堂遺品 筆



交通案内：道後温泉駅より徒歩５分　道後公園駅より徒歩５分
＊公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館

TEL089-931-5566　〒790-0857 松山市道後公園 1-30
施設運営・管理／株式会社レスパスコーポレーション
https://shiki-museum.com